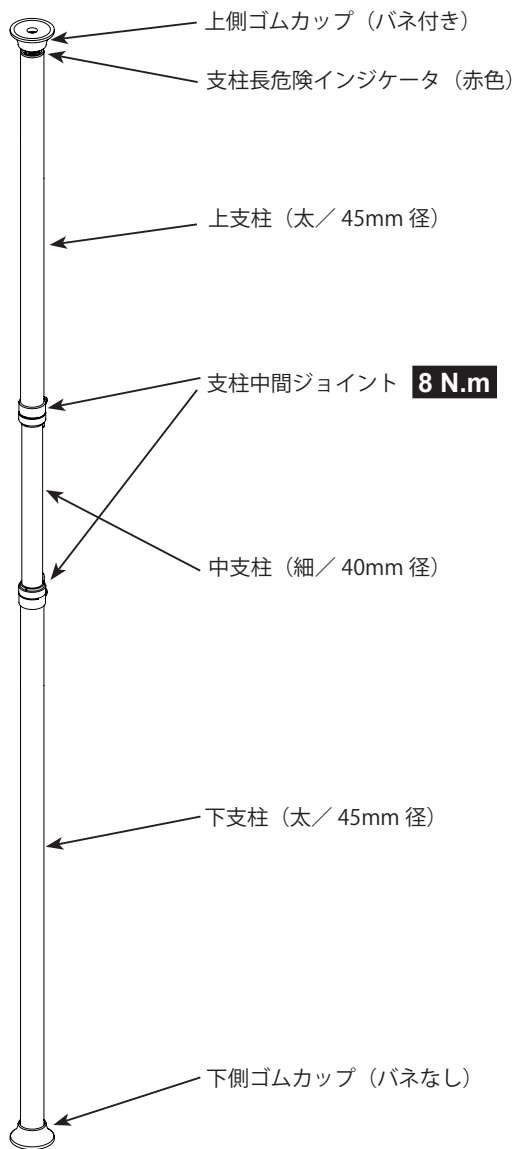


このたびは「MPI-270」をお買い求めくださいます、まことにありがとうございます。

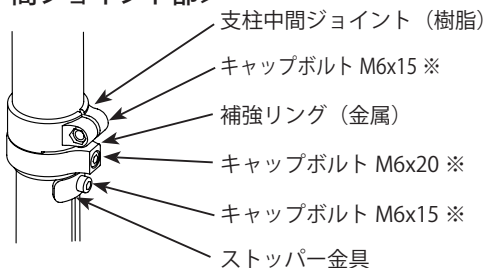
MPI-270 は、床から天井までの高さが 2.1 ~ 2.7 m の場所に簡単に設置できる 3 分割式の突っ張りポール型汎用支柱で、これにさまざまな別売オプションを追加することで、完成車やヘルメット、ウェアなどを、足もとのすっきりした 1 本のポールにまとめて搭載する便利な省スペース型収納スタンドに仕立てることができます。

ご使用になる前にこの説明書を最後までしっかりとお読みになり、各注意事項を十分にご理解いただいた上で、正しく安全にお使いください。

各部の名称



<支柱中間ジョイント部>



(※ボルトの締め付けトルクはいずれも **8 N.m** にて)

必ず注意していただきたいこと

- 本説明書を最後まで読み、すべての指示・注意事項を了承した場合にのみ本商品をお使いいただけます。
また本商品の使用をもって、すべての項目を了承したものと見なします。
- 万一支柱が縮んでしまった際の転倒防止のため、添付の樹脂ストラップを使って、上支柱を天井もしくは壁の構造材に結びつけてください。
ストラップを使用しないまま設置して万一転倒したとしても、弊社はその損害の責任を負いかねます。ユーザーご自身のリスクでお使いください。
- オプションのバイククレードルを用いて水平に搭載できるのは一般的なスポーツ 2 輪自転車のみです。全長の長いタンデム車や前後で重量バランスが大きく異なるリカンベントや重い電動アシスト車などは、搭載時にバランスを崩す恐れがあるため使用しないでください。
また別のオプションである吊り下げフックを用いれば、自転車を前輪から吊り下げる形で、より省スペースに自転車を収納することができます。搭載時に後輪が床に着いてしまわない高さでお使いください。
- 自転車を水平に置く形では最大 4 台まで、吊り下げる形では最大 2 台までが 1 本の支柱で搭載できます。
- ストッパー金具を含め支柱中間ジョイントをしっかりと締め付けて設置したあとに、上支柱を手で持ち体重をかけて引き下げてみて上支柱がずり下がってこないことを確認してください。
もし動いてしまう場合はそのまま使用しないで、ボルトを増し締めしてください。それでも解消しない場合は部品を交換する手配をしてください。
- この支柱は、上側ゴムカップに内蔵されているバネにより天井側に押し付けられることで突っ張って支えられています。
天井のゴムカップが当たる箇所は、必ず梁で補強された場所にしてください。
梁がなく天井板だけの場所だとバネの力で天井板を突き破ったりたわんでしまう恐れがあると同時に、十分な力で支柱を支えることができず、使用中に外れて転倒してしまう恐れがあります。
- 支柱の長さは正しく調整してください。また中支柱はできるだけ上下均等な長さで挿入してください。
設置中にも上側ゴムカップから赤い危険インジケータが見えていたとしたら、それは支柱が必要な長さよりも短くなってしまっていることを意味します。
いったん取り外し、支柱をもう少し伸ばしてから設置し直してください。
このチェックは日常的に行なってください。
- 上下方向を逆にして使用することはできません。必ずバネが仕込まれている方が上側になるようにして使用してください。
また支柱を横向きにした突っ張り棒のように使用できません。
- 支柱は必ずどの方向から見ても完全に垂直になるように設置してください。
傾いたまま設置すると十分に保持されなくなり、使用中に外れて転倒してくる恐れがあり危険です。
- ゴムカップの材質は十分に吟味してありますが、床や天井の材質や表面コートの種類によってはゴムカップの跡を付けてしまうことがあります。賃貸住宅など跡を付けてしまうことが許されない場合は、ゴムカップとの間に紙を一枚だけ、もしくは木板などを挟んでください。ビニールなどは滑るので不適です。
- MPI-270 自体は 1 本の支柱のため、搭載された自転車やクレードルにぶつかったり衣服を引っかけたりすると、支柱を軸にして全体が自転車ごと回転してしまいます。
もしそうなっても大丈夫なように、この支柱の周囲には壊れやすいものなどを置かないでください。
- 品質向上のため、商品仕様は予告なく変更されることがあります。

支柱の設置について

寸法設定→仮設置→寸法修正→本設置→確認→固定の順で設置します

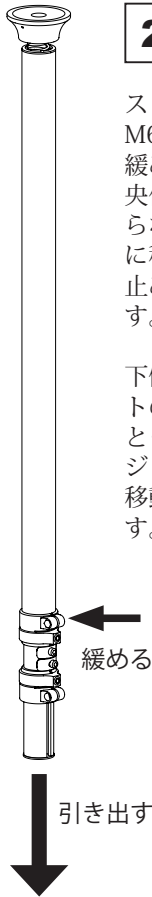
必要な工具： 5ミリ六角レンチ

1

MPI-270 では、下支柱は、上支柱と中支柱が組み合わされたものは別になって梱包されています。

上側中間ジョイントを側面から止めている M6x15 ボルトと、金属補強リングの M6x20 ボルトの両方を少し緩めて、中支柱を引き出します。(図1)

引き出した後は、ボルトは軽く締めて仮止めしておきます。



(図1)

ヒント

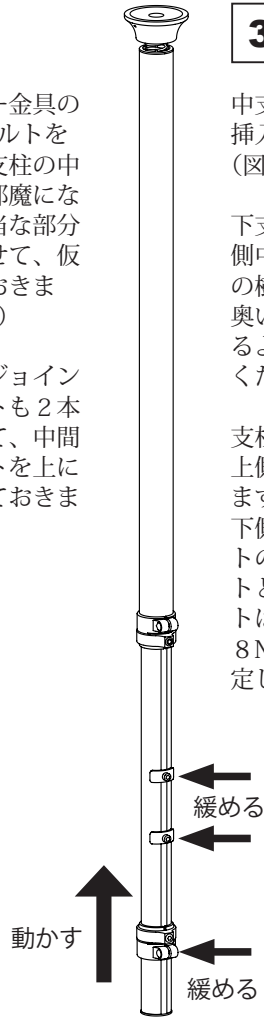
下支柱の長さは 1.2 m です。これを物差し代わりにして床から天井までの高さが測れます。たとえば、ちょうど下支柱2つ分なら天井高は 2.4 m ということになります。

約 0.9 m ある中支柱は上下支柱には均等な長さで挿入されている必要がありますので、たとえば天井高が 2.4 m だった場合は、中支柱はおよそ 25cm 上支柱に残るように (65cm 露出しているように) すると、設置後に中支柱の位置調整をやり直さなくても済みます。

2

ストッパー金具の M6x15 ボルトを緩め、中支柱の中央付近の邪魔にならない適当な部分に移動させて、仮止めしておきます。(図2)

下側中間ジョイントのボルトも2本とも緩めて、中間ジョイントを上移動させておきます。



(図2)

3

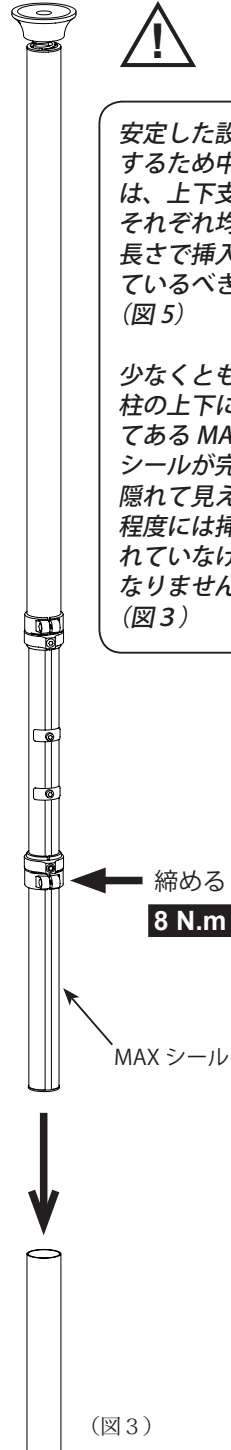
中支柱を下支柱に挿入します。(図3)

下支柱の上端が下側中間ジョイントの樹脂胴体の中奥いっぱいまで来るよう押し込んでください

支柱長さの調整は上側支柱で行ないますので、ここで下側中間ジョイントの M6x15 ボルトと M6x20 ボルトは両方とも 8.N.m で締めて固定しておきます。

以降は下側中間ジョイントは触りません。

これで支柱の仮組み立ては終了です。次は天井高に合わせた設置を行ないます。

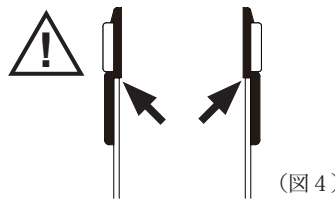


(図3)



安定した設置と
するため中支柱は、上下支柱にそれぞれ均等な長さで挿入されているべきです。(図5)

少なくとも中支柱の上下に貼ってある MAX シールが完全に隠れて見えない程度には挿入されていなければなりません。(図3)



(図4)

下支柱は中間ジョイントにいっぱい突き当たるまで挿入します。浮いたままだと、設置後の支柱が急に縮み転倒してしまう原因になります。

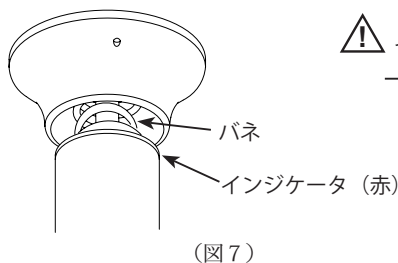


(図5)

(図6)

4 実際の天井高に合わせた設置を行いません。
ゴムカップの下にバネが見えている方が天井側になります（図7）。逆向きには設置できません。

上側支柱中間ジョイントの補強金属リングの M6x20 ボルトを緩めます（側面からのボルトは緩めません）。これで支柱は自由に伸縮できるようになります。



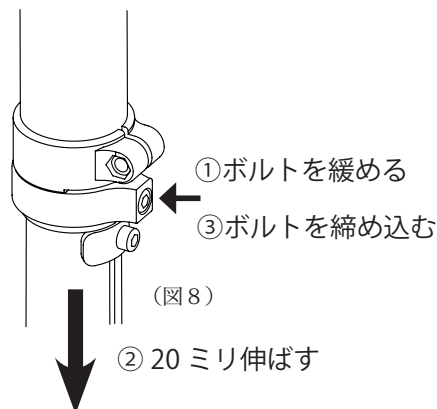
(図7)

5 まず支柱を床に立て、上支柱を天井に向けて伸ばします。

上側ゴムカップが天井に当たったところで、M6x20 ボルトを軽く締めて支柱の長さを仮決めします。これがバネを縮めない状態で測った天井から床までの実際の長さです。

6 いったん支柱を取り外して、床に横たえます。

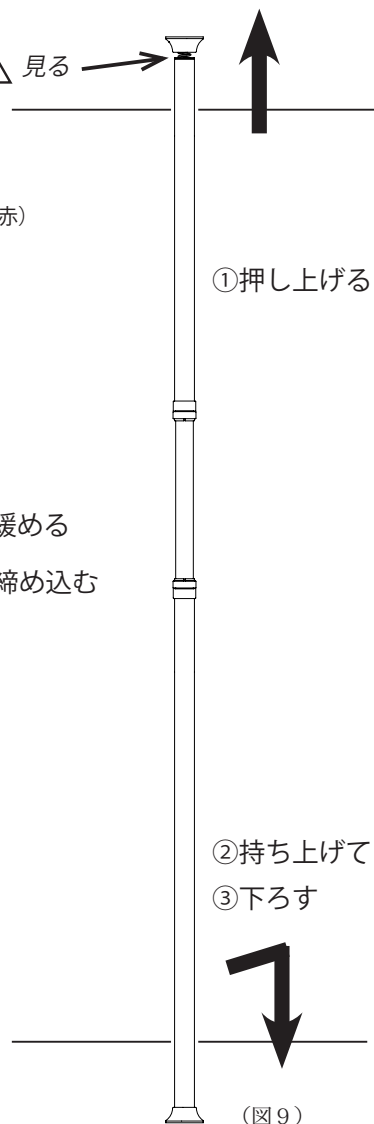
7 仮決めした支柱をあと 20 ミリだけ伸ばします。（図8）
先ほど仮決めした M6x20 ボルトを緩め、下支柱を 20 ミリだけ伸ばし、今度はボルトを 8N.m で締め付けて固定します。
これで最終的な支柱の長さが決まりました。



(図8)

8 ストッパー金具の M6x15 ボルトを少し緩め、下支柱に設けられた溝に沿って動かしていき、中間ジョイントに密着させたところで 8N.m で締め付けます。これは万一中間ジョイントが緩んだとしても支柱が縮んだりしないようにするための安全装置です。ストッパー金具の移動は上下2個とも行ないます。

9 次に支柱の設置です。（図9）
①まず上側ゴムカップを天井の梁の入っている丈夫な場所に押し当て、そのまま上に突き上げるようにして支柱上端のバネを縮めます。
②持ち上げたまま、斜めになっている支柱を立てていき、
③垂直になったところで静かに床に下ろして支柱を立てます。



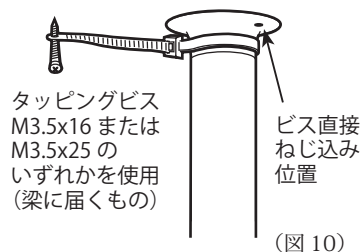
(図9)

! 支柱を立てたとき、もし上側ゴムカップから赤い危険インジケータが見えていたら、それは支柱がまだ必要十分に伸ばし切れていないことを意味しています。いったん支柱を外し、赤いインジケータが完全に上側ゴムカップに隠れる程度に支柱を伸ばし直してから、もう一度設置してください。

10 上支柱をつかんで体重をかけて引き下げてみて、中間ジョイントがしっかりと固定されていることを確認します。

! この確認は必ず行なってください。これを実施しないまま使用して万一不具合で倒れたりした場合には、弊社はその責任を負いかねることになります。もし上支柱がずり下ってしまう場合は、MPI-270 は使用せず、すみやかに販売店が弊社までご連絡ください。部品交換の手配をいたします。

11 上支柱の上側ゴムカップ付近に添付の樹脂ストラップを巻き、一杯に絞って抜けないようにしてから、その端をタッピングビスで天井もしくは壁の構造材にしっかりとねじ込むか、あるいは指定位置に直接ビスをねじ込み天井に固定するなどして、万一の地震などで支柱が外れて倒れてこようとしても保持できるようにしてください。（図10）
これは必ず実行してください。天井板や壁板だけの部分へのねじ込みだけでは不十分です。必ず梁などの構造材にねじ込んで固定してください。



(図10)

ボルトねじ込み時の注意



ネジというものはその構造上、ある角度では斜めにねじ込んでしまいます。ほんの1回転ほどで引っかかって止まってしまうますが、これをネジ山に何か異物があって止まったのだと勘違いして工具で無理に回し、ネジを破損させてしまうというトラブルがあとを絶ちません。ボルトはできるだけ工具を使わずに慎重にねじ込んでいき、はじめの3回転ほどは問題なくスムーズにねじ込めることを確認してから、初めて工具を使っての本締めを行なうようにしてください。はじめからいきなり工具で本締めしようとしてはいけません。

品質保証期間

本商品の品質保証期間は、お買い上げ日より起算して**1年間**です。

保証を受ける場合は、この期間内であることの証明である販売店発行のレシートや納品書などご購入日がわかる書類を添えてお申し出ください。

ただし自然摩耗や経年劣化、弊社が許可していない改造や分解に起因するものなどは保証の対象外となります。

詳しくは添付の「製品保証規定」カードをご一読ください。また最新情報については製造メーカーのウェブサイトを適宜参照するようにしてください。

お問い合わせ先

<販売元>

株式会社 フカヤ

〒 460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37-3F
Phone: (052) 228-8910 / Fax: (052) 228-8917
www.fukaya-nagoya.co.jp

<製造元>

株式会社 箕浦

〒 503-2312 岐阜県安八郡神戸町下宮 134-1
Phone: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505
minoura@minoura.jp [営業部]
infodesk@minoura.jp [カスタマーサービス]
www.minoura.jp

日本製